

おいしい

米づくり情報

No. 6

令和8年7月15日発行
J A て ん ど う
天童市農業技術指導会議

▶現在の生育状況（7月10日現在）

品種	項目	指標	R5	R6	R7	本年	平年	平年差	指標差
はえぬき	草丈 (cm)	57.0	62.5	60.91	64.1	53.8	59.7	-5.9	-3.2
	茎数 (本/m ²)	610	615	621	572	715	616	99	105
	葉令 (枚)	10.4	9.6	9.1	9.6	8.8	9.3	-0.5	-1.6
つや姫	草丈 (cm)	58.0	70.4	67.5	69.8	61.7	62.2	-0.5	3.7
	茎数 (本/m ²)	510	589	534	468	690	572	119	180
	葉令 (枚)	10.2	9.9	9.3	9.6	9.1	9.3	-0.3	-1.1
雪若丸	草丈 (cm)	52.0	57.7	59.4	63.1	50.4	56.6	-6.2	-1.6
	茎数 (本/m ²)	620	667	609	607	672	623	49	52
	葉令 (枚)	10.4	9.8	10.2	10.3	9.7	9.4	0.3	-0.7

・はえぬき

草丈はやや短く、茎数は多い。葉令は平年並。

・つや姫

草丈は平年並。茎数は多く、葉令は平年並。【出穂期予測 8/4～6 頃】

・雪若丸

草丈はやや短く、茎数は多い。葉令は平年並。【出穂期予測 7/31～8/2 頃】

・ザルビオ（AI）による「はえぬき」出穂期予測（7/13 時点）



地区	移植日	出穂 (10%)	地区	移植日	出穂 (10%)
山口（山王）	5/20	8/2	寺津（鍋田）	5/22	8/2
小関（堅田前）	5/20	8/1	高掬（八光田）	5/25	8/3
			蔵増（八幡田）	5/16	7/30

※AI 予測になりますので参考とし、実際の圃場と見比べて管理してください。

全品種、出穂期は平年並～やや早まる予想（幼穂が確認されています）

中干し終了の時期です。実施していない圃場では、**早急に作溝・中干しを行い根の健全化と生育調整を行いましょう！**

▶中干し後の水管理

中干し終了後は間断灌水(飽水管理)の徹底

- ・中干し終了後は、足跡に水がたまる程度まで走水を行い、徐々に**間断灌水（2日湛水、2日落水）**に移行し、根の活力維持に努めましょう。
- ・幼穂形成期（出穂 25 日前）～穂揃期は水分や酸素を多く必要とするため、**出穂期まで間断灌水を継続**しましょう。
- ・特に高温が続く場合には、稲体に水分を供給する為に、飽水管理を意識して水田の土壌が乾かないように注意しましょう。

▶穂肥 **はえぬき**にNK化成22号（20-0-20）を施用する場合

- ・穂肥は、出穂 25 日前（7月 7～10 日頃）の 1 回ですが、葉色が濃く穂肥ができなかった圃場で、葉色がさめてきた圃場では、すぐに減肥して施用する。（現物で 5 ～ 8 kg/10a）
- ※ただし、葉色のさめない圃場は、穂肥は行わない。

▶斑点米カメムシ類対策 **7/2 注意報発表！！**

斑点米カメムシ類の発生量は、平年より「多い」状況です。

斑点米カメムシ類発生抑制のため**畦畔、農道、圃場周辺の草刈り、除草剤散布を**

7月20日まで行いましょう！

また、斑点米カメムシ類は、水田内の「ノビエ類」や「ホタルイ」で繁殖するため、**残草対策を徹底**しましょう！

※出穂間近の草刈りは、カメムシ類を水田に追い込んでしまい、被害が大きくなる可能性があるため、出穂 2 週間前頃には草刈りを終了しましょう。

※転作牧草地・雑草地に生息密度が高いところが見受けられるので、生育不良等により転作牧草を利用できない所は、転作確認後早めに刈り取って下さい。

▶葉いもち病防除

- ・葉色が濃いところや、過繁茂なところを中心に観察し、発生を確認したら直ちに防除して下さい。

使用薬剤	グラシン粉剤 D L 4 kg/10a（収穫 7 日前まで 2 回以内）
------	--------------------------------------

※周辺作物への飛散に十分注意して下さい。

おいしい 米づくり情報

No. 6
令和8年7月15日発行
J A て ん ど う
天童市農業技術指導会議

▶現在の生育状況（7月10日現在 田麦野）

品種	項目	R3	R4	R5	R6	R7	本年	平年	平年差
あきたこまち	草丈 (cm)	44.5	63.1	62.0	62.1	59.9	49.0	53.9	-4.9
	茎数 (本)	21.1	22.2	27.1	20.3	16.0	18.0	20.0	-2.0
	葉令 (枚)	7.2	8.5	9.0	7.6	8.2	8.0	8.1	-0.1

・あきたこまち 草丈は平年より短く、茎数はやや少ない。葉令は平年並。

・ザルビオ（AI）による「あきたこまち」出穂期予測（7/13 時点）

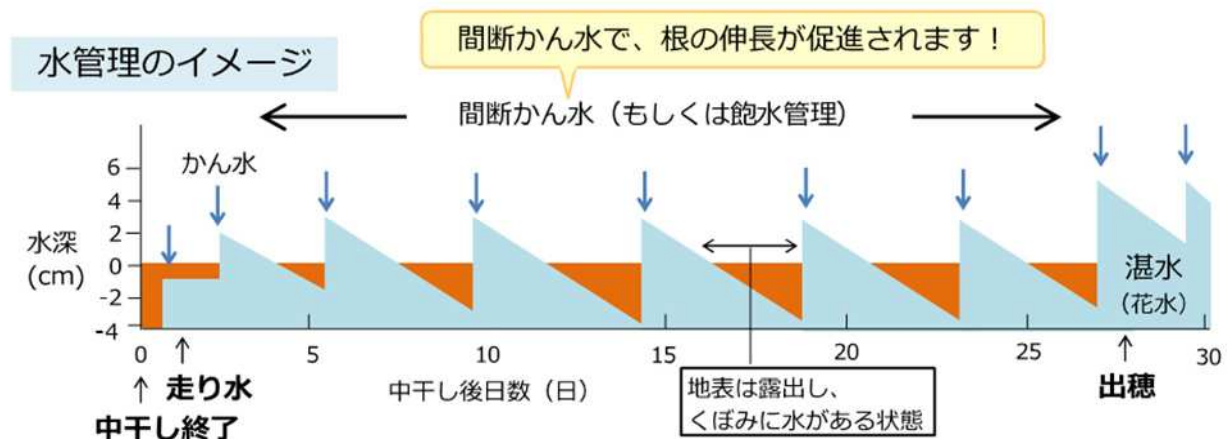


地区	移植日	出穂（10%）	出穂（50%）
田麦野（仲森）	5/23	8/2	8/11

※AI 予測になりますので参考とし、実際の圃場と見比べて管理してください。

▶中干し後の水管理 **中干し終了後は間断灌水(飽水管理)の徹底**

- ・中干し終了後は、足跡に水がたまる程度まで走水を行い、徐々に**間断灌水（2日湛水、2日落水）**に移行し、根の活力維持に努めましょう。
- ・幼穂形成期（出穂 25 日前）～穂揃期は水分や酸素を多く必要とするため、**出穂期まで間断灌水を継続**しましょう。
- ・特に高温が続く場合には、稲体に水分を供給する為に、飽水管理を意識して水田の土壌が乾かないように注意しましょう。



▶ **穂肥** **あきたこまちにNK化成22号（20-0-20）を施用する場合**

- ・穂肥は、出穂 20 日前（7 月 10～12 日頃）の 1 回のみとし、現物 7～8kg/10a（N 成分 1.4～1.6kg）施用する。
- ・葉色が濃く穂肥ができなかった圃場では、葉色がさめてから出穂 10 日前（7 月 20 日頃）に、減肥して施用する。（現物で 5 kg/10a）

▶ **斑点米カメムシ類対策** **7/2 注意報発表！！**

斑点米カメムシ類の発生量は、平年より「多い」状況です。

斑点米カメムシ類発生抑制のため**畦畔、農道、圃場周辺の草刈り、除草剤散布を**

7月20日まで行いましょう！

また、斑点米カメムシ類は、水田内の「ノビエ類」や「ホタルイ」で繁殖するため、**残草対策を徹底**しましょう！

※出穂間近の草刈りは、カメムシ類を水田に追い込んでしまい、被害が大きくなる可能性があるため、出穂 2 週間前頃には草刈りを終了しましょう。

※アカヒゲホソミドリカスミカメの成虫は飛来性があり、イネ科等を生息場所として実を吸汁しています。オオゲシラホシカメムシは、行動範囲は数m位でクローバー・オオバコ付近に生息しやすく、実を好んで吸汁しています。

※転作牧草地・雑草地に生息密度が高いところが見受けられるので、生育不良等により転作牧草を利用できない所は、転作確認後早めに刈り取って下さい。

▶ **葉いもち病防除**

- ・葉色が濃いところや、過繁茂なところを中心に観察し、発生を確認したら直ちに防除して下さい。

使用薬剤	ブラシン粉剤 D L 4 kg/10a（収穫 7 日前まで 2 回以内）
------	--------------------------------------

※周辺作物への飛散に十分注意して下さい。

▶ **良品質米・高温対策** **高温が続く予報！！**

3 か月予報では **8 月の気温は高くなる見込み**です。高温による米の品質低下を抑えるため【ケイ酸質肥料】を活用しましょう。

品名：**K S K 2 8**（ケイ酸 28%、加里 17%）



散布目的	施用時期	施用量
・タンパク抑制 ・登熟向上	中干し後の入水時 1 回	1.4kg 入り（1 本）/10a
・増収（粒張り向上）・倒伏軽減	流し込み後 3～5 日程度止水	4.2kg（1 個）/30a
・ 高温障害（胴割れ・乳白）対策	（出穂期前まで施用する）	14kg 入（1 缶）/1ha